

エアエンジンカー (JS-7905)

「チューブモジュール B とポンプの空気もれチェック」 (説明書 13 ページ) 補足

説明書 13 ページの「チューブモジュール B とポンプの空気もれチェック」は、エアエンジンカーが正しく動作するために必ず行う必要があります。

この部分をもう少し詳しく説明します。またうまくいかない時の修正方法も写真を使って説明していきます。

14 ページ 3 のチェックで、D4 を A3 に 30 ～ 40 回くらい出し入れしてもメーターの針が動かないときはどこかで空気がもれています。

また、メーターの針が上がってきてもすぐに下がってしまうときもどこかで空気がもれています。

症状によってチェックする場所が変わってきますので、当てはまる症状とチェックするところを確かめてください。

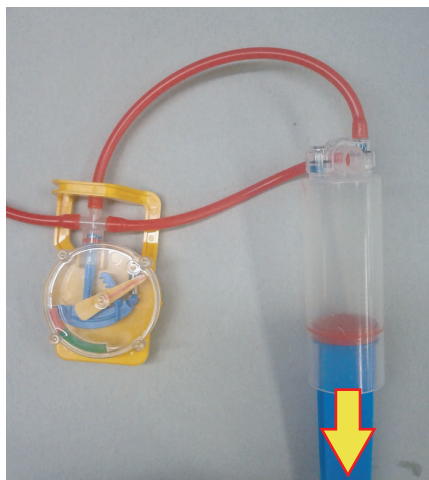
症状：

メーターの針が上がるがすぐに下がる。

または、D4 を押し込んで手をはなすと空気に押しもどされる。

※正常な場合でも、ポンプを 4 ～ 5 回押しただけでは D4 が押しもどされる場合があります。

必ず 30 ～ 40 回くらい D4 を出し入れしてから確かめましょう。



症状：

メーターの針がぜんぜん動かない。

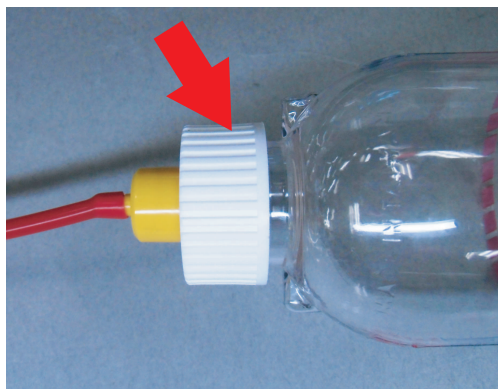
次のページの A へ



次のページの B へ

A:

①エアタンクのフタがきちんと締まっていない可能性があります。



②E2 のチューブをつないだ方のエアバルブ、
Oリング（黒）が正しく取り付けられていない可能性があります。



修正方法は下記の「エアバルブ・Oリング（黒）
のくわしい取り付け方」を見てください。

B:

①メーターが正しく組み立てられていない可能性があります。



説明書 9 ～ 10 ページをもう一度チェック
してください。

②E2 のチューブをつないでいない方のエ
アバルブ、Oリング（黒）が正しく取り付
けられていない可能性があります。



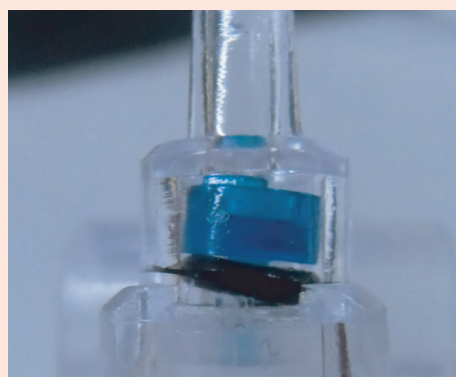
修正方法は下記の「エアバルブ・Oリング（黒）
のくわしい取り付け方」を見てください。

「エアバルブ・Oリング（黒）のくわしい取り付け方」

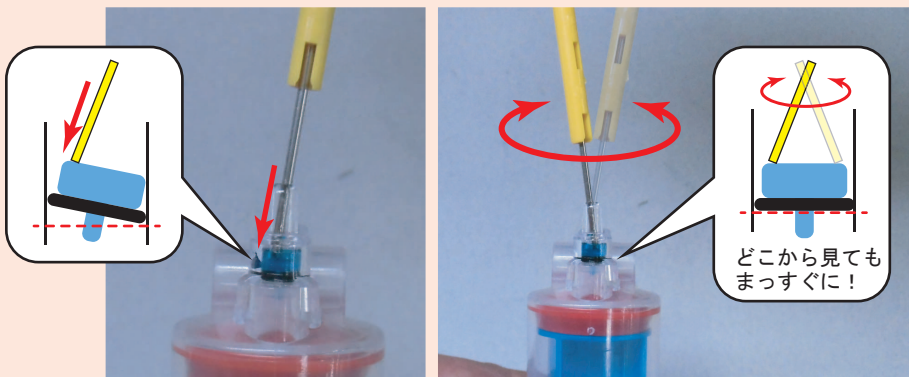
E2 に取り付けた「エアバルブ」「Oリング（黒）」の取り付け方は、チューブが付いている方もついでいない方も同じ方法です。

ここではチューブが付いている方の写真で説明します。

空気が漏れている場所の「エアバルブ」や「Oリング（黒）」は、写真のようにナナメになっているはずですが、これをまっすぐに取り付け直さなくてはいけません。



説明書 11 ページ 6 のように調整シャフトを差し込み、Oリング（黒）がまっすぐになるように押し込みます。下の写真のように、Oリング（黒）がナナメになっているところを押さえたり、調整シャフトをグルグル回して、Oリング（黒）がどこから見てもまっすぐ（水平）になるようにします。



このエアバルブ、Oリング（黒）、エアタンク、メーターのチェックをしたあと、もう一度説明書 13 ページのチェックを行って、空気がもれてないことを確認してください！